

# オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第42号

2004年11月1日

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/asaj2/>

1. 2004年度総会・全国研究大会が6月12日(土)と13日(日)の両日、大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館で開催されました。今回は通常の一般個別研究報告に加えて、会場の特質を生かして、現代アボリジナル文化に関する特別講演、オーストラリア史を「白人」、先住民、アジア人の視点から展望するシンポジウム、アボリジナルに関する館内展示観覧、アボリジナル民族誌に関する映画鑑賞及びそれに関する解説等、先住民について多様な角度から考える機会を得ることができました。懇親会では、アボリジナル楽器ディジュリドゥの生演奏まで披露され、参加者は一様にオーストラリアの大地の雰囲気を感じることができました。前日に追手門学院大学で「Teach Australia: オーストラリアを教える先生のための実践ワークショップ」が盛大に開催された勢いに後押しされるかのように、参加会員数も80名以上を数えただけでなく、プログラムの充実を反映してか、13日(日)の午後のプログラムでもなお40名近くの参加者が残り、盛会のうちに無事終了することができました。今回、会場の手配等を一手にお引き受けいただき、多大なご協力をいただいた国立民族学博物館の松山利夫会員、久保正敏会員、及び同博物館のスタッフの方々、関係各位に厚くお礼を申し上げます。また、特別講演のDjon Mundine氏の参加に助成をいただいた豪日交流基金にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。なお、全国研究大会の運営に当たって数々の不手際があったことを学会事務局としてお詫び申し上げます。

## 2. 総会報告(2004年6月13日開催)

### (1) 2003/2004年度事業報告・決算報告

下記の事業報告が決算報告(別掲)及び監査報告と共に承認されました。

『オーストラリア研究』第16号(2004年3月)を発行。

『オーストラリア学会会報』第39号、第40号、第41号を発行。

『会員名簿』(2003年9月現在)を発行。(2003年10月)

第15回全国研究大会(2004年6月)を国立民族学博物館にて開催。

### (2) 2004/2005年度事業計画・予算案

下記の事業計画が予算案(別掲)と共に承認されました。

『オーストラリア研究』第17号(2005年3月)を発行する。

『オーストラリア学会会報』(年3回程度)を発行する。

第16回全国研究大会(2005年6月)を同志社大学にて開催する。

### (3) 第6期理事会(2004年12月-2007年12月)役員案

役員改選が提案され、以下の役員が承認されました。(順不同)

谷内達、関根政美、福嶋輝彦、橋本雄太郎、有満保江、安藤充、鎌田真弓、小林信一、鈴木雄雅、石垣健一、加賀爪優、岡崎一浩[以上、重任]

竹田いさみ、加藤めぐみ、藤川隆男、松繁寿和、南出真助、田澤佳昭[以上、新任]

## 3. 第5期第5回理事会報告(2004年6月13日)

2.の総会議事以外に、新規入会(別掲)が承認されました。

#### 4. 大会報告者（海外在住者）への交通費助成のお知らせ

第13回全国研究大会から、報告される会員には海外在住者に限り、交通費助成（一律5万円）を行うことになりました（2001年12月18日第5期1回理事会決定）。前年11月末日までに事務局あて書面（メール可）にて、その旨事務局まで申し出てください。12月開催予定の理事会で申請案件を審議、決定をいたしますので、一般の個別報告の申し込み時期より前になります。ご注意ください。

#### 5. 『オーストラリア研究』研究文献目録掲載のお知らせ

第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に係る目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。

編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだFD）をご利用ください。

[記入例]は第15号（2003.3）を参照し、掲載書式に必ず準じる形でお送りください。

締切りは2004年11月30日（期日厳守）

連絡先：オーストラリア研究編集委員会

〒252-8510 藤沢市亀井野 1866 日本大学生物資源科学部 小林 信一

: 0466-84-3656 Fax: 0466-80-1178 E-mail: kobayashi@brs.nihon-u.ac.jp

なお、受信した旨をお知らせするメールが必ず返信されますので、ご確認ください。

### 2003/2004 年度決算報告

#### 【収入の部】

前年度からの繰越金	831,542	円
一般会費	1,005,000	
雑収入	11,033	
収入合計	1,847,575	円

#### 【支出の部】

印刷費	787,458	円
会議費	170,338	
謝金	0	
消耗品費	7,513	
通信費	142,940	
雑費	5,000	
支出合計	1,113,249	円
差引残高	734,326	円

### 2004/2005 年度予算

#### 【収入の部】

前年度からの繰越金	734,326	円
一般会費	1,000,000	
賛助会員	20,000	
雑収入	10,000	
収入合計	1,764,326	円

#### 【支出の部】

印刷費	800,000	円
会議費	220,000	
謝金	10,000	
消耗品費	20,000	
通信費	150,000	
雑費	10,000	
小計	1,210,000	
予備費	554,326	
支出合計	1,764,326	円

#### 2001年12月-2004年12月役員一覧

[代表理事] 谷内 達

[副代表理事] 小林 宏、関根政美、廣田耕司

[事務局長] 福嶋輝彦 [副事務局長] 北村育子

[庶務担当理事] 橋本雄太郎

[学会誌担当理事] 有満保江、安藤 充、鎌田真弓、小林信一

[会報担当理事] 岡本哲明、鈴木雄雅

[地域担当理事] 石垣健一、加賀爪 優、傳田 功、遠山嘉博

[監事] 岡崎一浩、鈴木顕介

書評:

保苅 実 著『ラディカル・オーラル・ヒストリー：オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』

御茶ノ水書房、2004年9月刊行、本文318頁(2,200円)

関根政美(慶應義塾大学)

日豪はもとより、世界的にも注目されはじめて  
いるラディカルな歴史家、保苅実会員の研究の一  
端をまとめた本書が本年9月に出版された。しか  
し、5月に癌との壮絶な戦いに敗れ、著者ご本人  
はメルボルンで既に他界している。歴史研究関係  
の学会やオーストラリア学会に属す人々、そして、  
保苅会員の研究を楽しみにしていた一般読者には  
残念なことだ。この場を借りて保苅会員の追悼を  
かねて本書の書評を行いたい。本書は、保苅君の  
英文博士号請求論文とその他の論考を土台に、闘  
病中にまとめたもので学術的価値は極めて高い。  
「その他」の論考には、本学会誌『オーストラリ  
ア研究』にも掲載されたものが2編ある。

本書の目的は2つ。その1つは、オーストラリ  
ア北部のアボリジニ集団の「長老」の「語り」、白  
人入植以来のアボリジニ社会とアボリジニが一体  
化しているオーストラリアの大地の破壊(環境破  
壊)の歴史の概要を明示し、それが近代の科学的  
歴史研究からみて珍妙なものでも、アボリジニの  
もつ確固とした「歴史」と「歴史実践」を明らか  
にすること。2つ目は、アボリジニの歴史の「語  
り」、すなわち、「オーラル・ヒストリー」を重視  
する立場から、その歴史の「語り」を梃子として、  
従来の近代国民国家発展史研究とともに発展して  
きた西欧・日本の歴史研究の作法を相対化し、歴  
史の描き方の多様性・多元性を認めるよう歴史学  
界に論争を挑むことである。双方ともかなりラデ  
ィカルな試みである。

「そもそも、アボリジニの語る歴史を本気で、  
歴史として研究する歴史家なんているの?うそで  
しょう。」たしかに、白人入植以後のアボリジニの  
悲惨な歴史を研究する歴史学者はオーストラリア  
にも多い。そして、未だに反論はあるが、悲惨な  
歴史そのものも十分解明された。だが、それは飽  
くまでも白人オーストラリア人や日本人など外部  
の研究者による文献資料や考古学的な記録・遺物  
資料に基づく近代的歴史研究の手法に基づく客観  
的に合理的に明らかにされてきた歴史である。し  
かし、保苅会員がしたことは、外部の人間ではな  
くアボリジニ自身もつ歴史はどうなっているの

か探求することだった。アボリジニ本人達が語る、  
白人入植以後のアボリジニと大地をめぐる歴史で  
あり、彼ら・彼女らが語り、実践している「歴史」  
そのものである。

なぜそれに保苅会員がこだわったのか。従来の  
近代歴史研究の手法では、時には魔術的な要素が  
含まれる記憶資料は二義的なもの・信用できない  
ものとして軽視・無視されがちであり、無文字で  
記録がなく、記憶に頼らざるを得ないアボリジニ  
の語る歴史は、伝統的歴史研究から排除されてき  
たからだ。その結果、アボリジニの語りは、神話  
や物珍しい奇妙な語りとして歴史研究から排斥さ  
れ、なによりも歴史家はアボリジニの語る歴史に  
はまったく関心を示さず、それらは、文化人類学  
者の研究領域とされたのである。

その点で、自身も共感するが、「喪章史」を論  
じる人々でさえも近代的歴史研究手法に立脚し、  
アボリジニ自身の語りに耳を傾けようとはせず、  
アボリジニを歴史研究の客体としてのみ扱ってい  
る。こうした歴史研究を真の歴史とする帝国主義  
的な立場に反対し、白人入植以後の歴史を同時に  
歩んだアボリジニの歴史の語りに真摯に耳を傾け、  
アボリジニの「内なる論理」に従った語りから学  
べと主張する。たしかに、近代的歴史研究の方法  
論からはとても許容できない内容がそのなかにあ  
る。例えば、J.F.ケネディやキャプテン・ク  
ック、ジャッキー・バンダマラ(キーン・ルイス)  
が大陸北部にやって来た、などである。そのよう  
な歴史的事実はない。でもそれもアボリジニの歴  
史。蛮人の語りとして切り捨てずに真摯に耳を傾  
けよという。人間は皆平等であるように歴史も皆  
平等なのだ。

アボリジニの歴史の語りをじっくり聞き取り、  
まとめ、その「内なる論理」の概要を体系的に明  
らかにしたのが本書であり、本書で巨大でラディ  
カルな歴史論争を仕掛けようとした保苅会員の声  
に真摯に耳を傾け論争を展開する歴史家がどのく  
らい今後登場するかは評者には分からない。とて  
つも大きく大きな論争の火種を残して、保苅はド  
ーミング世界に旅立っていった。

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学国際学部 福嶋輝彦研究室気付  
オーストラリア学会事務局 : 042-797-2661(代) / 042-797-9467 (直)  
FAX: 042-797-2743 E-mail: terryf@obirin.ac.jp

会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会  
本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、  
投稿など、事務局または会報担当理事(鈴木、HAF00025@nifty.ne.jp)までお送りください。

[編集担当: 朝水宗彦(立命館アジア太平洋大学)・田澤佳昭(道都大学)]

